活動記録

ひょうご歴史研究室は、平成二七年（二〇一五）四月、県民の郷土に対する愛着を深め、「ふるさと意識」に根ざしたひょうご文化の発展・継承をめざし、県内各地の歴史の調査・研究を目的にして、兵庫県立歴史博物館内に開設された（設置要綱は表紙ウラに掲載）。

室の構成メンバーは、博物館長を室長兼務、次長を副室長兼務とする。そのほか館内外の博物館・資料館の学芸員、市町の文化財担当者、大学関係者、民間団体研究者などを参与・研究員として協力を仰ぎ、本年度から、新しく二名の研究者（土佐雅彦と田村正孝の両氏）が加わった。

全体を統括する教育委員会文化財課からは、村上裕道事務局参事兼文化財課長の退任にともない、山下史朗文化財課長のもと、三名の職員が各班の補佐役として加わった（柏原正民・小川弦太・永惠裕和の三氏）。

また非常勤職員の研究コーディネーター（坂江渉）・歴史研究推進員（大村拓生）・事務スタッフ（清水みゆき県政推進事務員）の各一名を配置している。研究室は現在、総勢二九名で成り立っている（詳細は裏表紙ウラの「室構成メンバー一覧」を参照）。

初年度、研究の基本方針を討議するコア会議、全体会会議の開催を経て、室の当面の研究テーマを、

①『播磨国風土記』
②赤松氏と山城
③たたら製鉄

の三つにするという方針が立てられ、その遂行のため、三つの研究班が編成された。

平成二七年度は、編纂から一三〇〇年を迎えた『播磨国風土記』研究、二八年度は、赤松氏と山城研究、そして今年度は、たたら製鉄研究に集中的に取り組んだ（各班の研究会と館外の調査活動については、168～169頁の一覧表を参照のこと。ただし本誌第二号に掲載できなかった昨年度の分も含む）。また本年度は、全体会を一回、コア会議を二回開催した。

以下、三つの班の研究活動と研究成果等について紹介する（敬称を略した箇所がある）。

一、たたら製鉄研究班

⑴体制と研究方針

本年度は、新たに土佐雅彦氏を共同研究員に迎え、また文化財課の柏原正民主幹を補佐役として、構成メンバーは七名となった。

一回目の研究会で、「宍粟市と共同して、考古部門と文献調査部門の基礎的研究をすすめる」という方針を掲げ、調査研究に臨んだ。

平成三〇年一月末段階で、館外調査を四回、研究会を二回おこなった（同年三月四日午前中に、第三回目の研究会をおこなう予定）。

⑵研究成果

調査研究の結果、文献史の分野では、当館所蔵史料、『宝暦六年鉄山一件』の分析がすすみ、近世中期播磨での鉄山経営や山林政策のあり方の実像がみえてきた。また宇野正碌氏が発掘した関連史料、『千草屋手控帳』の中身を吟味して、その再校訂の作業を試みた。

考古学の分野では、宍粟市を中心とする古代～近世の遺構群の掘り起こしと再調査（測量調査など）をおこない、新しい情報が蓄積された。これは来年度の本格的発掘調査につながる成果である。

一方、たたら製鉄研究の先進県である島根県古代文化センターとの連携・交流がすすんだのも本年度の成果であった。一〇月一四日（土）には、村上泰樹共同研究員が、テーマ研究「たたら製鉄の成立過程」の客員研究員共同検討会（松江市）において、兵庫県の研究の現状と成果を報告した。三月には、笠井今日子共同研究員が、同検討会に参加し、情報交換をする予定である。

来年度に向けて、覚書の締結など、さらに組織的な形の連携・交流ができるよう、現在検討中である。

これらを踏まえ、つぎのような成果発表をおこなった。

⑶研究成果の公表

①特集号の執筆

本誌の特集テーマとして、「播磨のたたら製鉄」を立て、土佐雅彦・伏谷聡・笠井今日子・田路正幸の各共同研究員、大槻守客員研究員が、研究成果を執筆した。また西岡章寿宍粟市教育長に特別寄稿を依頼した。

②年度末の研究成果発表会

平成三〇年三月四日（日）、館内ホールにて市民向けの研究成果発表フォーラム「播磨のたたら製鉄研究の新展開」を開催する。岩波映画製作所の短編映画「和鋼風土記」の上映の後、笠井共同研究員が「古文書からみた近世播磨のたたら製鉄」、田路共同研究員が「考古学からみた宍粟の製鉄遺跡」と題する講演をおこない、約一時間の討論をする予定である。

③地域講演会への協力

博物館と友の会の共催行事、「地域講演会」の開催に協力した。歴史研究室の推薦のもと、たたら製鉄研究班に関連する、つぎの三人が講師をつとめた。

□角田徳幸（島根県立古代出雲歴史博物館交流・普及課長）
「たたら吹製鉄とその地域性」

□笠井今日子（共同研究員）
「書き記された『たたら製鉄』」

□田路正幸（共同研究員）
「宍粟のたたら製鉄」

二、『播磨国風土記』研究班

⑴体制と研究方針

本年度は、文化財課職員の小川弦

太主査を補佐役に加え、合わせて一〇名のメンバーで研究に着手した。

一回目の研究会で、「『播磨国風土記』調査研究を持続させるとともに、関係する自治体関係者との信頼関係を確立した上で、広く県内各地の古代史研究にも着手する」という方針を立て、調査研究に臨んだ。

平成三〇年一月末段階で、館外調査を一五回（昨年度は八回）、研究会を三回（昨年度と同数）開催した。

⑵研究成果

『播磨国風土記』研究については、神話・伝承に関わる宍粟市・三木市・明石市などの現地調査をおこない、各地の歴史的な地形環境分析をすすめた。また昨年度以来、本格的に取り組んでいる風土記の写本調査を実施した。

また本年度から、淡路地域社会研究に本格的に着手した。淡路島日本遺産委員会と連携して、現地調査や資料調査をおこなうとともに、合同研究会を二回開催した。

その結果、新たな風土記の写本資料の発見や、淡路島の海人や「国生み」神話をめぐる新しい歴史像の獲得につなげることが出来た。

淡路島日本遺産委員会との連携は、来年度も継続することが確認され、今後は、近世淡路の地誌研究も本格化させることになった。

これらを踏まえ、本研究班では、つぎのような成果発表をおこなった。

⑶研究成果の公表

①本誌での論文執筆

坂江渉と垣内章客員研究員が、淡路地域社会研究と、『播磨国風土記』の写本調査の研究成果を発表した。

②教員セミナーへの協力

県内の学校教員が、博物館を活用して魅力ある授業、楽しい校外学習ができるよう、毎年開催されている「教員セミナー」に協力した。本年度は、八月八日（火）に開かれ、坂江渉の、「『播磨国風土記』の魅力 ―国宝・世界遺産・地域歴史遺産―」と題する講演の後、質疑応答をおこなった。

③ひょうご歴史研究室in淡路島

平成三〇年二月四日（日）、淡路市立サンシャインホールにて、市民向けのシンポジウム「淡路島古代史の魅力を探る ―海人と国生み神話―」を開催する（淡路島日本遺産委員会共催、県立考古博物館後援）。

古市晃客員研究員が、「古代の淡路島と海人」、伊藤宏幸淡路市教育委員会文化財活用等担当部長が「考古学からみた淡路島の海人」、坂江渉が「国生み神話と古代の海人」と題する講演をおこない、約一時間の討議をする予定である。

三、赤松氏と山城研究班

⑴体制と研究方針

本年度から、新たに田村正孝氏を客員研究員として、文化財課の永惠裕和技術職員を補佐役として迎え、構成メンバーは九名となった。

昨年度決定した、「三ヶ年を目途にして、上郡町が実施する「赤松館」の埋文調査と連携しつつ、それと並行して千種川流域を中心とする基本的な文献資料のデータ収集・整理にあたり、その調査・分析をすすめる」という方針のもと、調査研究に臨んだ。

平成三〇年一月末段階で、館外調査を七回、研究会を二回おこなった（第三回目の研究会を、三月一一日におこなう予定）。

⑵研究成果

本年度、研究室と連携する上郡町がすすめる「赤松居館跡」の試掘調査によって、三時期の遺構面が検出され、武家が宴会で使用する土器がまとまって出土したことが、大きな成果であった。

来年度はこの成果を踏まえ、さらに本格的、計画的な発掘調査研究が望まれる。

文献史の分野では、禅宗関連史料の調査分析を継続し、その結果、中世播磨の禅宗寺院の実像が浮かび上がったきた。

来年度は、考古学と文献史学が綿密に連携し、研究最終年に相応しい成果を上げることが期待される。また新たに、「たたら製鉄研究班」と連携して、中世刀剣銘文資料の調査をおこなうことも決められた。

これらを踏まえ、本研究班では、つぎのような成果発表（昨年度分も含む）をおこなった。

⑶研究成果の公表

①昨年度末の成果発表会

平成二九年三月四日（土）、館内ホールにて市民向けの成果発表会、「赤松氏研究の新展開　―発祥の地、赤松から考える―」を開催した。講師と講演テーマは以下のとおり。

□島田拓（共同研究員・上郡町教育委員会）

「赤松館跡試掘調査の成果と課題」

□山上雅弘（研究員・兵庫県立考古博物館）

「城郭史からみた白旗城」

□大村拓生（歴史研究推進員）

「文献史からみた赤松地区」

休憩の後、小林基伸（客員研究員・大手前大学）と、坂江渉（研究コーディネーター）を司会として、会場から寄せられた質問にもとづき、フォーラムをおこなった。

討議では、上郡町で試掘調査された「赤松居館跡」の遺物・遺構をめぐる状況、白旗城の歴史的特質、赤松氏の出自や系譜などをめぐり、活発に議論が交わされた。

参加者からは、「昨年度の風土記の成果発表会も面白かったが、今日の赤松氏の研究も良く、広域的に西播

磨を捉えることに期待している」「非常にレベルの高い研究成果を分かり易く話してもらい、素人にもよく理解できた」「魅力的なテーマを、考古学・文献史学の両面から分析している点が良かった」などの意見が寄せられた。

このフォーラムについては、県内外の市民、二五八名から聴講希望が寄せられ、厳正な抽選のうえ、当日は一一〇名が参加した。

②ひょうご歴史文化フォーラム

平成二九年一一月一八日（土）、上郡町生涯学習支援センターで、ひょうご歴史文化フォーラム「発祥の地、赤松から考える　―赤松氏研究の新展開―」が開催された。

歴史文化フォーラムは、毎年開催される博物館行事で、ひょうご歴史研究室が、全面的に協力した。当日の講師と演題は、つぎのとおり。

□大村拓生（歴史研究推進員）
「文献史からみた赤松地区」

□島田拓（共同研究員・上郡町教育委員会）
「赤松居館跡発掘調査の成果と課題」

□山上雅弘（研究員・兵庫県立考古博物館）
「南北朝・室町期の守護拠点」

休憩の後、小林基伸（客員研究員・大手前大学）と大谷輝彦（共同研究員・姫路市教育委員会）をコーディネーターとして、パネルディスカッションをおこなった。

中世の赤松氏にとっての赤松地区の意味、赤松氏の諸段階と発掘調査での遺構面の関係、遺跡の全国的な位置づけと今後の展望などについて議論が交わされた。

当日は、上郡町の内外から、合わせて一八〇名の参加者がみられ、「文献史学と考古学の両面から、赤松居館跡にアプローチされており、有意義な会だった」「赤松居館跡の来年調査後の報告が楽しみ」などの声が寄せられた。

③本誌での論文執筆

大村拓生歴史研究推進員が、本誌の「ひょうご地域史研究ノート」コーナーで、「在京守護期の赤松地区と禅院の諸相」と題する研究成果を発表した。

四、その他

歴史研究室では、平成二七年の秋に情報発信ツールの一つして、ホームページを開設している。催し物案内のほか、三つの研究班の調査活動や研究成果を取り上げ、本年度も情報更新につとめた。

（以上、文責は坂江渉）

平成28年度（承前）～平成29年度
ひょうご歴史研究室研究会一覧（敬称略）

コア会議と全体会

	日付	場所	内容	人数	備考
①	２／25㈯	館内	平成28年度第２回全体会	18	平成29年度の事業立案
②	４／22㈯	館内	平成29年度第１回コア会議	12	事業企画の具体化
③	７／９㈰	館内	平成29年度全体会	24	事業企画の具体化
④	11／５㈰	館内	平成29年度第２回コア会議	14	平成30年度以降の事業全般の方向性について

たたら製鉄研究班

	日付	場所	報告	人数	備考
①	２／18㈯	館内	・角田徳幸「中世の鉄生産と近世たたら吹製鉄の成立」	13	島根から招聘
②	６／11㈰	館内	・笠井今日子「『宝暦六年鉄山一件』資料調査の中間報告」 ・大槻守「コメント・宝暦六年鉄山一件」 ・伏谷聡「『千草屋手控帳』の校訂について－見えてきた課題－」	16	
③	９／10㈰	館内	・笠井今日子「『宝暦六年鉄山一件』資料調査の中間報告⑵」 ・土佐雅彦「戦前期の宍粟郡下のたたら鉄滓調査報告をめぐって」	14	年度末の成果発表会の打合せも実施

『播磨国風土記』研究班

	日付	場所	報告	人数	備考
①	１／28㈯	館内	・神戸佳文「兵庫県立歴史博物館の淡路総合調査について」 ・村上泰樹「淡路島の古代遺跡概観　－県教委発掘成果を中心に－」	15	
②	６／24㈯	館内	・垣内章「『播磨国風土記』写本調査速報」 ・高橋明裕「『紀要』第２号古市晃「国家形成期における淡路の位置」をめぐって」	15	
③	８／23㈬	淡路市	・大平茂「古墳時代の淡路島」 ・定松佳重「古墳時代の淡路島南部の遺跡概要」 ・伊藤宏幸「淡路島の海人と製塩遺跡」 ・坂江渉「「国生み」神話の歴史的前提」	14	淡路島日本遺産委員会との第１回合同研究会
④	１／13㈯	洲本市	・武田信一「国生み神話と淡路島の海人」 ・古市晃「近世淡路の地誌にみる古代認識－『淡路五草』を素材にして－」	18	淡路島日本遺産委員会との第２回合同研究会

赤松氏と山城研究班

	日付	場所	報告	人数	備考
①	２／19㈰	上郡町	・大村拓生「禅宗史料収集の進捗状況」	8	現地調査も実施
②	６／24㈯	館内	・大村拓生「中世後期の千種川水運と禅宗寺院」	14	
③	９／11㈪	上郡町	・「赤松居館跡」試掘調査現場と出土遺物の実見を踏まえた意見交換	8	

平成28年度（承前）～平成29年度
ひょうご歴史研究室現地調査一覧

たたら製鉄研究班

	日付	用務	行き先	人数	備考
①	２／３㈮	資料調査	古文書所蔵者宅（宍粟市）	5	資料調査と写真撮影
②	３／28㈫	資料調査	生野書院（朝来市）	2	山方役所関連史料の調査
③	４／26㈬	資料調査	姫路市史編集室	5	風土記班との合同調査
④	５／26㈮	研究打合	宍粟市教育委員会	2	宍粟市教育長と面談
⑤	６／２㈮	現地調査	赤西Ａ遺跡・荒尾鉄山跡（宍粟市）など	2	宍粟市教委と合同調査
⑥	９／２㈯	研究打合	島根学講座（大阪歴史博物館）	1	島根県職員との打合せ

『播磨国風土記』研究班

	日付	用務	行き先	人数	備考
①	４／29㈯	現地調査	生栖遺跡（宍粟市）など	2	遺跡・史跡など
②	５／19㈮	資料調査	兵庫県立歴史博物館	2	『播磨国風土記』写本
③	５／30㈫	現地調査	伽耶院・窟屋１号墳（三木市）など	2	遺跡・史跡など
④	６／６㈫	現地調査	五斗長垣内遺跡、舟木遺跡（淡路市）	2	淡路市教委と合同調査
⑤	７／12㈬	現地調査	中谷遺跡（三木市）など	2	遺跡・史跡など
⑥	７／25㈫	現地調査	御井の清水伝承地（淡路市）など	2	淡路市教委と合同調査
⑦	８／30㈬	現地調査	五色塚古墳（神戸市）太寺廃寺（明石市）など	2	遺跡・寺院など
⑧	９／22㈮	現地調査	宍粟市歴史資料館など	3	製塩土器の調査など
⑨	10／22㈰	現地調査	宍粟市一宮町閏賀地区	1	神社・寺院・史跡等
⑩	11／１㈬	資料調査	天理大学附属天理参考館（天理市）など	1	「三条西家本」調査
⑪	12／８㈮	資料調査	兵庫県公館県政資料館「歴史資料部門」	1	『兵庫県漁業慣行録』
⑫	12／19㈫	資料調査	兵庫県公館県政資料館「歴史資料部門」	1	『兵庫県漁業慣行録』
⑬	12／22㈮	資料調査	淡路市教委、淡路市立津名図書館	1	淡路市教委と合同調査
⑭	12／26㈫	資料調査	兵庫県公館県政資料館「歴史資料部門」	1	『兵庫県漁業慣行録』
⑮	１／31㈬	現地調査	聖陵山古墳（加古川市）など	2	遺跡・史跡など

赤松氏と山域研究班

	日付	用務	行き先	人数	備考
①	２／19㈰	現地調査	白旗城（上郡町）など	8	曲輪の構造等踏査など
②	５／４㈭	現地調査	大島城跡（相生市）室津（たつの市）など	1	港湾の立地環境等踏査
③	６／１㈭	現地調査	千種川流域（赤穂市）など	1	千種川流域環境等踏査
④	８／11㈮	現地調査	播磨沿岸部（姫路市・高砂市・明石市）	1	播磨沿岸部立地等踏査
⑤	８／25㈮	現地調査	赤松居館跡（上郡町）	2	発掘調査現場の熟覧
⑥	９／11㈪	現地調査	赤松居館跡（上郡町）	8	発掘調査現場の熟覧
⑦	10／13㈮	現地調査	千種川上流域（佐用町）	2	佐用町教委と合同調査
⑧	11／23㈭	現地調査	加古川右岸（加古川市・高砂市）	1	石造物群の現地調査

「ひょうご歴史研究室」設置要綱

（設　置）

第１条　兵庫県内の地域の歴史の調査・研究を通じ、県民の郷土の歴史に関する理解をさらに深め、教育、学術及び「ふるさと意識」に根ざしたひょうごの文化の継承・発展に資するため「ひょうご歴史研究室」（以下「研究室」という。）を置く。

（場　所）

第２条　研究室の設置場所は兵庫県立歴史博物館内とする。

（所掌事務）

第３条　研究室は次に掲げる兵庫県の歴史研究に関する業務を行う。

⑴兵庫県内の歴史に関する調査・研究に関すること。

⑵調査・研究成果の普及に関すること。

⑶調査・研究成果の活用に関すること。

⑷その他兵庫県の歴史研究に関すること。

（組　織）

第４条　兵庫県立歴史博物館長の下に研究室の室長、副室長及びその他所要の職員を置く。

２　室長は兵庫県立歴史博物館長を、副室長は兵庫県立歴史博物館の次長をもって充てる。

（庶　務）

第５条　研究室の運営に係る庶務は兵庫県立歴史博物館において処理する。

（補　則）

第６条　この要綱に定めるもののほか、研究室の運営に関して必要な事項は別に定める。

附　則

この要綱は、平成27年４月１日から施行する。

平成29年度　ひょうご歴史研究室　構成メンバー一覧（敬称略）

【ひょうご歴史研究室コア会議メンバー】

室長	藪田　貫	兵庫県立歴史博物館館長
副室長	豊田　幸雄	兵庫県立歴史博物館次長
参与	中元　孝迪	播磨学研究所所長、兵庫県立大学特任教授
研究コーディネーター	坂江　渉	兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室
歴史研究推進員	大村　拓生	兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室
研究員	神戸　佳文	兵庫県立歴史博物館館長補佐
研究員	藤田　淳	兵庫県立考古博物館主任調査専門員兼学芸課長
客員研究員	大槻　守	香寺町史研究室主宰
客員研究員	小林　基伸	大手前大学総合文化学部長（史学研究所所員）
共同研究員	大谷　輝彦	姫路市教育委員会文化財課課長補佐
県教委事務局	山下　史朗	兵庫県教育委員会事務局文化財課長
☆県教委事務局	柏原　正民	兵庫県教育委員会事務局文化財課主幹

【『播磨国風土記』研究班】

◎研究コーディネーター	坂江　渉	再掲
研究員	神戸　佳文	再掲
研究員	藤田　淳	再掲
客員研究員	古市　晃	神戸大学大学院人文学研究科准教授
客員研究員	高橋　明裕	立命館大学文学部非常勤講師
客員研究員	垣内　章	播磨学研究所研究員
共同研究員	大平　茂	前三木市立金物資料館館長
共同研究員	藤木　透	佐用町教育委員会教育課企画総務室副室長
共同研究員	大谷　輝彦	再掲
☆県教委事務局	小川　弦太	兵庫県教育委員会事務局文化財課主査

【赤松氏と山城研究班】

◎客員研究員	小林　基伸	再掲
研究員	堀田　浩之	兵庫県立歴史博物館学芸課長
研究員	山上　雅弘	兵庫県立考古博物館学芸課担当課長補佐
共同研究員	藤木　透	再掲
共同研究員	大谷　輝彦	再掲
共同研究員	島田　拓	上郡町教育委員会総務課文化財係学芸員
☆客員研究員	田村　正孝	大手前大学史学研究所研究員
歴史研究推進員	大村　拓生	再掲
☆県教委事務局	永惠　裕和	兵庫県教育委員会事務局文化財課技術職員

【たたら製鉄研究班】

◎客員研究員	大槻　守	再掲
共同研究員	村上　泰樹	兵庫県まちづくり技術センター主任技術専門員
共同研究員	伏谷　聡	兵庫県企画県民部管理局文書課文書管理班非常勤嘱託
共同研究員	田路　正幸	宍粟市教育委員会教育部次長
共同研究員	笠井今日子	西宮市立郷土資料館学芸員
☆共同研究員	土佐　雅彦	兵庫県立篠山東雲高等学校教諭
県教委事務局	柏原　正民	再掲

・・・・・・・・・・・・

☆県政推進事務員	清水みゆき	兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室

◎：各研究班リーダー、☆：平成29年度新規

執筆者紹介

・藪田　貫（やぶた・ゆたか）
ひょうご歴史研究室長
・土佐　雅彦（とさ・まさひこ）
ひょうご歴史研究室共同研究員
・伏谷　聡（ふしや・さとし）
ひょうご歴史研究室共同研究員
・笠井今日子（かさい・きょうこ）
ひょうご歴史研究室共同研究員
・田路　正幸（とうじ・まさゆき）
ひょうご歴史研究室共同研究員
・村上　泰樹（むらかみ・やすき）
ひょうご歴史研究室共同研究員
・大槻　守（おおつき・まもる）
ひょうご歴史研究室客員研究員
・西岡　章寿（にしおか・あきとし）
宍粟市教育長
・坂江　渉（さかえ・わたる）
ひょうご歴史研究室研究コーディネーター
・大村　拓生（おおむら・たくお）
ひょうご歴史研究室歴史研究推進員
・垣内　章（かきうち・あきら）
ひょうご歴史研究室客員研究員

編集後記

平成二七年（二〇一五）四月に開設されたひょうご歴史研究室の事業も、三年目が終わろうとしています。三つの研究テーマのうち、今年度は、「たたら製鉄」研究を重点的に推進し、本誌特集号の刊行など、いくつかの成果を上げることができました。

また、『播磨国風土記』研究班は新たに淡路島日本遺産委員会と連携して海人と国生み神話の研究をすすめ、「赤松氏と山城」研究班は引き続き上郡町の埋文調査と連携し、いずれも現地でシンポジウムを開催し、本誌に設けられたひょうご地域史研究ノートにも、その成果の一部が公表されています。

それぞれの分野において、ご協力賜った数多くの方々や関係機関に、厚く御礼申し上げます。

来年度は、各研究班による三年間の研究成果をふまえ、さらなる飛躍の年にしたいと思います。関係者の皆様の、より一層のご支援を、心よりお願いする次第です。

（大村拓生）

ひょうご歴史研究室紀要　第三号

平成三〇年（二〇一八）三月二三日発行
編集・発行　兵庫県立歴史博物館ひょうご歴史研究室
（編集担当・坂江渉、大村拓生、清水みゆき）
〒六七〇-〇〇一二　兵庫県姫路市本町六八番地
電話　〇七九-二八八-九〇一一
HP　http://www.hyogo-c.ed.jp/~rekiken/
印　刷　合名会社　柳生印刷所
〒六七一-一五六一　兵庫県揖保郡太子町鵤五六八
電話　〇七九-二七六-〇〇四八